

名水アンケート 回答

岐阜県

三重県

分区	クラブ名		分区	クラブ名	
岐阜A	岐阜		桑名	桑名	
	岐阜北	○		桑名中央	
	岐阜長良川			桑名西	
	岐阜中			桑名北	○
岐阜B	岐阜西		四日市	四日市	
	岐阜エトス			四日市東	
	岐阜東	○		四日市北	
	岐阜城			四日市南	
	岐阜加納	○	四日市西		
	岐阜中山道		鈴鹿・亀山	亀山	
岐阜南		鈴鹿			
岐阜東南		鈴鹿西		○	
岐阜西濃	不破	○	鈴鹿ベイ	鈴鹿ベイ	
	不破の関	○		鈴鹿シティ	
	岐阜サンリバー			中勢・伊賀	久居
	岐阜淡墨	○	名張		○
	羽島	○	名張中央		
	本巣	○	津		○
	大垣		津北		
	大垣センチュリー	○	津南		
大垣中		上野			
大垣西		上野東			
岐阜東濃	恵那	○	松阪・東紀州	熊野	○
	瑞浪			松阪	○
	中津川			松阪東	
	中津川センター			松阪山桜	
	多治見		伊勢・鳥羽・志摩	尾鷲	
	多治見西			伊勢	
	多治見リバーサイド			伊勢中央	○
	土岐			伊勢南	
土岐中央	○	伊勢度会			
郡上八幡	○	志摩	○		
郡上長良川		鳥羽			
東海北陸道	各務原				
	各務原中央				
	各務原かかみの				
	美濃	○			
	関	○			
	関中央				
濃飛	下呂				
	可茂				
	可児	○			
	美濃加茂				
	加茂東				
	高山	○			
	高山中央	○			
高山西					

岐阜 A

名 水	
クラブ名	岐阜北ロータリークラブ
名水の名前	えんばら ふくりゅうすい 円原の伏流水
住 所	岐阜県山県市円原
云われ および写真	<p>本流「長良川」の支流、武芸川その支流「神崎川」さらにその支流が「円原川」です。(岐阜県山県市美山地区を流れる)</p> <p>地下を流れる伏流水が、苔むす岩間より地上に湧き出す「日本一の伏流水」と言われる水の美しさが魅力です。</p> <p>天然のミネラルをたっぷりと含み、岐阜県の「ぎふ・水と緑の環境百選」にも選ばれています。</p> <p>水温は軟水で、抜群な透明度も高く、水温は年間を通じて約13度を保っております。</p> <p>美味なる天然ミネラル水を求め、マイナスイオンたっぷりのこの地は、写真の愛好家の人々や、水汲みに訪れる方々の人気ある場所です。</p> <p>余談ですが、この湧水で入れたコーヒーやお茶は、絶品な味は間違いなし。是非お試しください。山県市観光協会のお折り紙つきです。</p> <p>また、この地は「山野草の宝庫」でもあり四季を通じて楽しむことができます。</p>
	* 写真 別添



岐阜 B

タイトル 名水
クラブ名 岐阜東ロータリークラブ

名水の名前 高賀神水

住所 岐阜県関市洞戸高賀

云われ 平成8年7月、地元高賀神社氏子らが高賀神社参道の入り口に位置する谷戸地内にあった大鳥居の手水用として、地下約50mの井戸を掘削したのが始まりである。
当初からこの水を飲んだ多くの人から非常に飲みやすく美味しいと反響が大きく、6か月位の保存でしたら問題なく、一年くらいの保存でも水の美味しさは変わらなかった。もちろん条件として、日の当たらない場所で水タンクを毎日揺らす事が条件になります。平成9年6月愛知工業大学土質工学教授大根義男氏によって「高賀山付近は古生代から中生代にできた地質で、掘削された付近は一億から一億五千年前の砂岩層である。その砂岩層が2~3本の断層で隔離されている上に、砂岩層の上は水を通しやすいので、このころの水がそのまま閉じこめられていて汲み出されている可能性が高い」と説明がなされている。毎日多くの方がこの水を求め岐阜市内はもちろんのこと名古屋一宮、の方たちも多く見受けられます。私も月に一度は水汲みに片道35キロを十年近く続けているところです。コーヒー炊飯、お茶、毎日飲む水として大変重宝しています。ぜひとも一度お出かけになってください。



名 水

クラブ名	岐早加納ロータリークラブ
名水の名前	清水川
住所	
云われ および写真	

①

②



岐阜西濃

名 水

クラブ名	不破ロータリークラブ
名水の名前	湯壺
住所	不破郡垂井町表佐
云われ および写真	<p>関ヶ原から垂井町の扇状地を流れる相川の、扇端の湧水。表佐地区には、民家の庭などに多くの湧水があったが、今は少なくなった。この湯壺はそれらの湧水の中では最大で、多くの泉量を湧き出しており、近所の主婦の洗濯場ともなっている。文豪谷崎潤一郎は、当時表佐にあった薬問屋飯沼家に長く滞在していたことがあり、その時のひと夏の体験から、名作「細雪」の有名な「蛍狩り」の場面が生まれたと言われる。最近ではホタルは少なくなったが、6月にはホタル祭りが開かれ、またここから流れ出る河川には、天然記念物の針のある小魚・ハリヨが生息している。</p>

名 水	
クラブ名	不破の関ロータリークラブ
名水の名前	垂井の泉・裏清水
住所	不破郡垂井町泉
云われ および写真	<p>西美濃・中山道垂井宿には、古来から和歌に詠まれた清水があり、それが垂井の地名の由来とされています。裏清水は、その隣に湧き出る泉で、四季を問わずその泉量は変わらず、遠く名古屋近辺で茶会が開かれるときも、この裏清水の水が汲まれています。近辺の方たちの生活用水としても使われ、毎朝洗濯物のすすぎ、野菜の洗浄など利用する人が絶えません。毎年7月には泉に感謝する祭りが開かれ、冬至の水は保存が利くとして汲みに来る人もいます。また大垣在住の著名な染色家・所鳳弘さんは、正月元旦午前0時除夜の鐘と共に、この裏清水に毎年汲みに来られ、初染の水に使われています。</p>

名 水

クラブ名	岐阜淡墨ロータリークラブ
名水の名前	最茶名（さいちな）の延命水
住 所	岐阜県本巣市金原中屋敷
云われ および写真	<p>東の空がほのぼのと明け始め、やがて太陽がのぼり大地を照らす。偉大なる自然の恵みが地下よりこんこんと湧き出、水は涸れることがない。古老や、地震学者によれば、この地は根尾谷断層上にあり、地震により地下に断層破碎帯ができ、それに沿って地下水が湧き出ているのです。</p> <p>この名水は、夏は冷たく冬は温かいため、手にするとそれだけで気持ちすがすがしくなります。</p> <p>金原は、国道 157 号線沿いにあり、水場は古代より美濃（根尾）から越前朝倉（福井）に通ずる唯一の街道でした。古くは堀口美濃守貞満（1335～1339）の城跡もあり、戦国武将や旅人は必ずこの名水を使い体を癒してきた憩いの水でした。延命仏やお地蔵様に祈願し旅を急いだと伝えられています。今でも上水道として利用するほどきれいでおいしい水で、水量はほどよく、水も汲みやすくなっています。金原地内へ入って2～3分走ると、道路はゆるい左カーブになり水場はその左側にあります。そこには金原地内の大きな案内板と、名水の由来を書いた碑があるので分かりやすくなっています。</p>



名 水

クラブ名	羽島ロータリークラブ
名水の名前	
住所	
云われ および写真	西濃地区には沢山あるのですが、羽島ではないと思います。

名 水

クラブ名

本巣ロータリークラブ

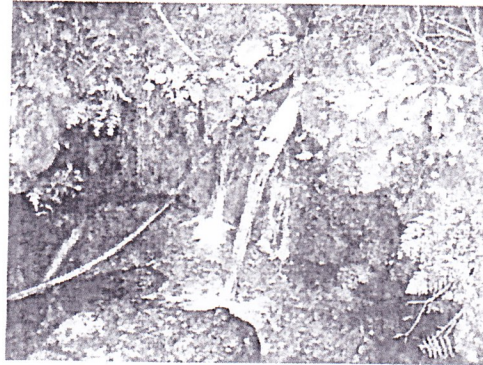
名水の名前

御女老君の水(おんばさまのみず)

住所

岐阜市根尾神所

云われ
および写真



本巣市根尾神所字登り村の氏神姥ノ神社境内南斜面から、こんこんと湧き出る水。
昔から、この湧き水に言い伝えがあり、継体天皇(26代)にお仕えたお姥様がお産につかった水ということから、いつからともなく「お姥様の水」とか「安産の水」などと呼ばれるようになり、今でもこの伝説を信じてか、妊婦が人知れずこの水を汲みに来るといいます。
しかし、今では農業用水として使用されることが多いようです。

名水所在地

本巣市根尾神所

問い合わせ先(担当課)

本巣市商工観光課
TEL:058-323-7756
FAX:058-323-1157
e-mail:kankou@city.motosu.lg.jp



交通アクセス

岐阜市からR157を北上、約1時間


名 水	
クラブ名	大垣センチュリーロータリークラブ
名水の名前	しあわせの泉
住所	〒503-0198 岐阜県安八郡安八町氷取 30 番地 ハートピア安八
云われ および写真	<p>しあわせの泉</p> <p>「しあわせの泉」の名称は、公募により「水のやすらぎや恵みを感じて 幸せになってほしい」との願いを込めて名付けられました。この泉は、東は長良川、西は揖斐川の間地点に位置し、地下150mから湧き出る 天然水 です。</p> <p>測定の結果「しあわせの泉」(水温13.9℃)の溶存酸素濃度は、9.99mg/L で高い数値である事が判明しました。</p> <p>○ 溶存酸素濃度の高い水を摂取した際の効能として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞を活性化させてみずみずしい肌を保つ効果がある。 2. 血液そのものを浄化させ、健康な体に導く。 3. 肉体疲労を軽減する。 <p style="text-align: center;">以上3つの効能があるようです。</p> <p>写真のように、お水だけを貫いに集まってみえます。ここのお水をひいて作ったビオトープには、きれいな水にしか生息しない「ハリヨ」という魚が泳いでいます。</p>





岐阜東濃

名 水

クラブ名	恵那
名水の名前	寿老の滝（じゅろうのたき）
住所	恵那市三郷町棕実
云われ および写真	<p>寿老の滝は、西濃の養老の滝に対し、老いを寿ぐ（長寿を祝う）「寿老の滝」と名付けられた。屏風山の麓で、三郷町と山岡町の境に位置し、人里離れた閑静な谷川の上流にある滝。落差は10メートルで、水量が多いときは、左右2つになって流れ落ちる。周りの緑と澄んだ水は癒しの空間になり、マイナスイオンが漂うリフレッシュの場として最高。夏には多くの家族連れが水遊びに訪れ、知る人ぞ知る避暑スポットとなっている。滝の近くでは、湧き水を飲むこともできる。滝には1765（昭和2）年の年号が刻まれた石造りの観音様が祭られている。</p> 

名 水

クラブ名	土岐中央ロータリークラブ
名水の名前	該当なし
住所	
云われ および写真	

東海北陸道

名 水

クラブ名	郡上八幡ロータリークラブ
名水の名前	宗 祇 水
住 所	岐阜県郡上市八幡町本町

云われ
および写真




郡上八幡は長良川の上流に位置し、奥美濃の山々から流れ出た吉田川、小駄良川、など三つの川が合流するところにあります。この恵まれた地形と長い歴史の中で郡上びとによって育まれた宗祇水は白雲水とも言われ1985年(昭和60年)環境省選定の名水百選第1号に指定されさらに、国土庁の「水の郷百選」にも選ばれています。旧八幡町は人と自然が調和した交流文化の街として水環境保全の重要性を広報するために、地域固有の水をめぐる歴史文化や優れた水環境保全に努め、水を活かした町づくりや村づくりに成果を上げています。

名 水

クラブ名	関ロータリークラブ
名水の名前	高賀の森水
住所	岐阜県関市洞戸高賀
云われ および写真	<p>奥長良川「高賀の森水」は、円空上人ゆかりの「高賀神社」がある長良川上流奥美濃洞戸高賀溪谷の1億年の地層から、時空を超えて湧き出た天然水です。なお、高賀神水庵に行けば、自分でこの森水を汲んで持ち帰ることもできます。</p> 

名 水

クラブ名	美濃ロータークラブ
名水の名前	甚力兵衛さんの川屋 (かんべいさんのかわや)
住所	岐阜県美濃市葦生 (地区)
云われ および写真	<p>言の川等には写真を添付し可。 一応「市指定有形民俗文化財」として美濃市に指定されて いるが、実際は今でも付近の人々がこの「湧き水」を有り 大切にしている。 この水は「湧き清水」です。「冬暖かく夏は冷たく」年中 この水が枯れる事はなく、多量の雨に下り谷川、川が溜る時でも いつもきれいな水の流れが続いています。「透き通る」ような水とい へばこの 事です。 写真からも分かるように、今は野菜洗い、飲物、果物の冷やしなどに 付近の小児の人々のみ利用している状況です、市指定文化財と してこの水ではわからず誰も利用しなくなり荒れ果てた事を 心配しておりました。この水「名水」です。</p>
	



市指定有形民俗文化財

勘兵衛さんの川屋（かわや）

川屋は紙すき工程のうち、ちり取りをする場所です。ちり取りは楮（こうぞ）などの原料をやわらかくするために煮たあと、原料についた不純物を取り去る作業です。美濃和紙の持つ特有の美しさはこのちり取りを丹念に行なうことによつて生まれます。

この川屋は市内で現存する六ヶ所の中では最大で、一番奥の井戸から豊富に湧き出る清らかな水は、一年を通じてほとんど水量が変わりません。多いときには約三十人が並んで作業をしていたといわれ、美濃和紙生産の作業工程の一つを示す場所として後世に伝えるため市の文化財に指定しました。

名称の「勘兵衛さんの川屋」は、この家の当主が代々勘兵衛という名前を名乗っていたことから、いつのまにかそう呼ばれるようになったといわれています。

（平成十五年三月指定）



2013年3月22日

国際ロータリ第2630地区

社会奉仕部門

委員長 山本 満祥 様

貴委員会、社会奉仕部門として進められておられます事業「名水・緑景観の推薦のお願い」付きまして、当美濃ロータリークラブといたしましての推薦場所の報告(提出)が大変遅れまして申し訳ございません。

さて、この度の貴部門が計画されておられますこの事業の事前の案内書には「主となる市町村の名水および緑景観を各一か所づつ推薦され」とありました故、一か所づつ限定の推薦場所選定に大変苦勞をしておりました。

ご存じのように美濃市は一部市街地を除いてどこも美しい山々に囲まれた緑いっぱいのところです、また水の大変きれいな板取川が市内の真ん中を流れ、更に市内の上流部へと続いております、また市内のいたるところに昔から地域住民に親しまれてきた湧水、谷川が点在しております。

この中から「各一か所づつ」と言われましても、どれもどこもそれぞれ特徴があり甲・乙つけがたく、理事会にも図りましたがこれもそれぞれ意見があり選定に大変困っていたわけです、が最終的に私(環境保全委員会・委員長)の生活している地元数か所の中から私個人の独断で「別紙報告書」のように名水と緑景観の一か所づつを選びここに推薦報告するものです。

しかし、各クラブから推薦された一か所づつについて貴、社会奉仕部門が「第2630地区の名水と緑」としてまとめられたとしても私個人的には今後のこの事業の展望が見えてきませんでした、それも数ある中からどれを選定推薦すればこの事業の趣旨に沿う推薦報告書になるかどうかはつきり分からないままの報告書になりました。

美濃ロータリークラブ

環境保全委員会

井上 重敏 委員長

濃 飛

名 水	
クラブ名	可児
名水の名前	
住所	
云われ および写真	特に推薦を申し上げることがございません。 会長 山本 道典

名水

クラブ名	高山ロータリークラブ
場所の名前	作料清水(さくりょうしみず)
住所	岐阜県高山市国府町広瀬町

云われ
および写真

岐阜県高山市国府町広瀬町の森には、かつての領主・広瀬山城守がお茶に使ったとか、産湯に使ったといわれる湧水が、森から音を立てて流れ出しています。各所で冷たくおいしい湧水が流れ出している飛騨地方でも、この作料清水は特においしい湧水として知られ、地元以外からも汲みに来る人が絶えないおいしい湧水です。その湧水は、高山市街地から車で約20分という近い距離にあります。そこは高山市国府町で、そこにある桜で知られる桜野公園が目印になっています。その公園の北側に広がる山の中腹にあり、地元地域住民によって守られ続けてきていることが分かるのは、住民組織によって東屋が建てられていることであり、多くの人々が湧水を汲んだあと、しばしばその東屋で休んでいる光景を目にすることがあります。この湧水は夏は冷たく、冬は温かい大変おいしい水で、この湧水を使ってコーヒーやお茶をいただくと、とてもまろやかな味になり、飛騨地域が自然豊かな地域であり、その自然が住民の力によって代々守り継がれてきた歴史を感じることができると思います。



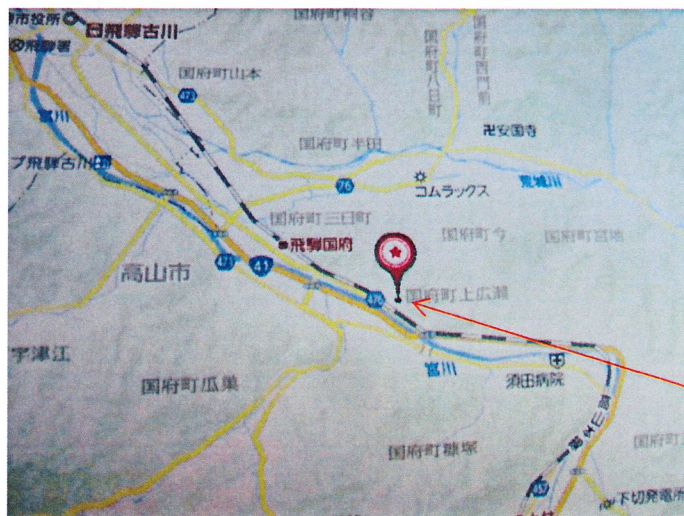
湧水の近くに建てられた東



山から音を立てて流れ出す冷



字作料に



高山市街地から
車で約20分の距

名 水	
クラブ名	高山中央ロータリークラブ
名水の名前	下記
住所	
云われ および写真	(1) 白雲水 (湧水) 旧高山市内 (2) 鉞子谷 (河川) 丹生川町 (3) 女男滝 (滝) 久々野町 (4) 宇津江四十八滝 (滝) 国府町 (5) 平湯大滝 (滝) 上宝町 (岐阜県の石水 50 選より)

桑 員



鈴鹿国際大学名誉教授
 国際ロータリー2630 地区
 桑名北ロータリークラブ
 地区 R 財団補助金小委員会委員

農学博士 水谷 令子

(〒511-0911) 三重県桑名市額田 782-13
 TEL&FAX 0594-31-1444
 E-Mail: r.mizumizu@ck9.so-net.ne.jp

水

住所

云われ
 および写真

山本委員長

かつて、研究活動として三重県下の湧水及び
 酒の仕込水等を調査しました。

古いのび名水事情も変化しているかもしねせんか？
 当時は、これほど人の地帯と思っております。

一応一般的水質も調べてあります。又写真も
 原簿に添付しております。

参考にすればと、レポートの作成をお送りします。
 質問があれば、メールにて下さい。

水谷令子

追伸、湧水ではありませんか？ 三重県北郷地方(鈴鹿、四日市
 市)には「マンサ」という地下用水があります。その
 構築物等についてもあります。地域の環境教育
 などに使われているところもあります。後から調査され
 たら、レポートにはお送りしません。

原 著

三重県の仕込み水

富田寿代¹⁾、水谷令子²⁾

(鈴鹿国際大国際学部教授¹⁾、鈴鹿国際大国際学部名誉教授²⁾)

食生活研究 Vol.27 No.5 (2007) (別刷)

THE RESEARCH SOCIETY for SCIENCE OF
DIETARY HABITS

Seiyu Bldg.,12-19,Nishi-Hon-machi 1- 12- 19chome,Nishi-ku
OSAKA,550-0005,Japan

原 著

三重県の仕込み水

富田寿代¹⁾、水谷令子²⁾

(鈴鹿国際大国際学部教授¹⁾、鈴鹿国際大国際学部名誉教授²⁾)

食生活研究 Vol.27 No.5 (2007) (別刷)

THE RESEARCH SOCIETY for SCIENCE OF
DIETARY HABITS

Seiyu Bldg.,12-19,Nishi-Hon-machi 1- 12- 19chome,Nishi-ku
OSAKA,550-0005,Japan

原 著

三重県の仕込み水

富田寿代¹⁾、水谷令子²⁾

(鈴鹿国際大国際学部教授¹⁾、鈴鹿国際大国際学部名誉教授²⁾)

1. はじめに

酒は米と米麴と水を原料とする日本の伝統的な醸造酒であり、コミュニケーションツールとして親しまれてきた。酒造りには、洗米、浸漬、仕込み水、ボイラー、冷却、器具設備の洗浄など、白米量の20～30倍の水が必要とされる。水は酒の80%を占めており、洗米、つけ水、仕込み水、割水の質は酒の味に影響するのでその管理が重要である。

水質と酒質の関係ははなはだ複雑で、完全には解明されていないが、酒造用水は清浄で飲用に適したものであることに加えて、酵母、麴菌の栄養源となってその増殖を助けるカリウム(K)、リン(P)、マグネシウム(Mg)や糖化酵素の安定化に寄与して間接的に発酵を促進するカルシウム(Ca)、塩素(Cl)などを適度に含んでいることが望ましい。一方、鉄(Fe)やマンガン(Mn)は日本酒の色を濃くし、香味を害する¹⁾。水中の溶存成分が不足している場合は添加することによって補えるが、除去は困難であるため、酒造りに有害な成分については含有量の少ない水を選ぶことが大切である。近年では、浄水技術の進歩により水道水を使用する酒造メーカーも増えているが、良質な自然水を用いている造り酒屋も多い。

三重県の北勢・中勢および伊賀地域は、鈴鹿山脈や布引・高見山地に端を発した多くの河川と豊かな地下水に恵まれており、これらの水を利用して数々の銘酒が生み出されている。本稿では、この地域の造り酒屋が仕込み水にどのような水を用い、その水質や水量を維持するためにいかなる工夫がなされているかを調べ、日本の

伝統文化と水環境保全との関わりについて考察する。

2. 調査地域

三重県は紀伊半島の東部に位置し、南北に細長く、東に志摩半島が突き出ている。北は養老山地と木曾三川を境に岐阜・愛知県と、西は鈴鹿山脈、信楽・笠取・台高および紀伊山地を隔て滋賀・奈良・和歌山県と京都府の一部と接しており、東側は伊勢湾と熊野灘に面している²⁾。地勢や気候により、北勢・中勢・伊賀地域および太平洋沿岸の伊勢志摩・東紀州地域に大別できる。紀伊山地は日本有数の多雨地帯であり、豊かな水系に恵まれて、古くから稲作に適しており、最良の酒造好適米である山田錦をはじめ、五百万石、伊勢錦などのさまざまな酒米が伊勢平野を中心に三重県各地で栽培されている。酒造りは内陸性気候で冬の寒冷な伊賀地域と冬季に寒冷な鈴鹿おろしが吹き下ろす北勢地域、布引おろしが寒気を運ぶ中勢地域が盛んで、これらの地域には様々な河川の豊富で清冽な伏流水が湧き出している。

北勢地域は北側に養老山地、西側に鈴鹿山脈を望み、東側は伊勢湾に面している。山麓部から平野部にかけて耕地が広がり、沿岸は県内最大の産業集積地域である。鈴鹿川は、その源を鈴鹿山脈の高島山に発し、幾つかの支流を合わせながら北勢地域南部の平野部を流れて伊勢湾に向かう、鈴鹿川水系本流の1級河川である。この河川水は流域の農業用水と鈴鹿市や四日市市等の上水道用水、工業用水として利

用されている。愛知県との境に流れる揖斐川(木曾三川)と鈴鹿川の間には朝明・三滝・天白川は、いずれも四日市市を横断する2級河川である。朝明川と三滝川の源流はそれぞれ鈴鹿山脈の朝明溪谷と御在所岳で、中上流域は山地と農耕地が大部分をしめ、水質も比較的良好と言える。鹿化川は四日市市街地西部の丘陵地帯から東へ流れ、本流の天白川と共に市街南部を潤して下流部で天白川に注ぐ。

中勢地域は背後に布引山地や紀伊山地を控え、山麓から平野部には耕地、中山間地には森林や河川と集落が点在している。この地方には、雲出・櫛田・宮川の3つの1級水系が流れる。雲出川は奈良県境の三峰山(布引山地)に発し、各支川を合わせ伊勢平野部に至り、さらなる支川を合わせて河口付近で雲出古川を分派し伊勢湾に至る雲出川水系の本流で、この地域の農業用水や上水道用水として使われている。中村川は雲出川の支流で、松阪市嬉野南西部の山地を水源とする。松阪市の高見山に源を発する櫛田川は三重県中部の中央構造線沿いを西から東に流れて、いくつかの支川を合わせ、さらに、伊勢平野に出て佐奈川を合わせて伊勢湾に注いでいる。宮川水系は、その源を三重県多気郡の日ノ出岳に発し、大杉溪谷を貫流し、大内山川等の諸支川を合わせ伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し伊勢湾に達する。その流域は三重県に属し、流域の大きさでは県内最大の河川であり、主として農業用水として利用されている。

伊賀地域は、布引山地西側の四方を山に囲まれた盆地に発達した市街地と山麓部の農村集落からなる。この地方の主な河川は淀川水系に属する。木津川は三重県から京都府に流れる淀川の大支流のひとつで、青山高原の水を集め、伊賀盆地で鈴鹿山脈と布引山地からの2大支流(柘植川・服部川)を合わせて西流し、笠置山地を貫く峡谷となって流れ、京都・大阪間の狭隘地で宇治川、桂川と合流し淀川となる。久

米川は伊賀市の中央辺りの喰代地区の山地に発して西へ向かい、旧上野市街地の南を流れ、木津川右岸に注ぐ。名張川は高見山地三峰山北麓を源に、奈良県から三重県に入って北流し、名張市街で青蓮寺川、宇陀川を相次いで合わせながら、市街地西部で大きく蛇行して溪谷を刻み、奈良・三重県境を北上し、京都府内で木津川に合流する。滝川は三重県名張市南部を流れる宇陀川中流部の支流で、奈良県宇陀市曾爾村北部の山中を起点に名張市に入り「赤目四十八滝」を形成した後、宇陀川中流部右岸に注ぐ。

3. 調査方法

三重県北勢・中勢・伊賀地域の造り酒屋を訪ね、仕込水にはどのような水を使っているか、それが地下水ならば水質調整や水環境を保全するためにおこなっている工夫について聞き取り調査した。さらに、その地下水を採取し、pH、CODおよび各種成分等を調べた。調査時期は2002年8月で、測定は $22 \pm 2^{\circ}\text{C}$ でおこなった。

4. 結果及び考察

4.1 水質管理と保全の工夫

造り酒屋のうち幾つかは、地下の水みちが変化したり井戸が古くなったため水道水を利用していた。また、下水道工事などで井戸水が濁ったため、一時的に水道水を使っていたところもあった。酒の仕込みをおこなわない季節は井戸を閉じている酒屋も多く、それらの仕込水は採取できなかった。したがって、得られた試料は、自噴井の水、地ビール等の製造、または、生活用水にも使っている井戸水である。採取試料の詳細と試料採取地の概図を表1と図1に示す。図1中の数字は表1の試料番号である。

No.1、2は鈴鹿川の伏流水である。No.1の造り酒屋は汲み上げた地下水に独自で塩素消毒を施した後、活性炭処理により遊離残留塩素を取り除いてから使用していた。近年、地下水の

表1 採取試料の詳細

	Samp. No.	採取地	特記事項	近くの河川/源流
北勢地方	1	四日市市楠町	井戸 (150m)	鈴鹿川 (鈴鹿川水系本流) / 高島山 (鈴鹿山脈)
	2	鈴鹿市神戸	井戸 (30m)、生活用水にも利用	鈴鹿川 (鈴鹿川水系本流) / 高島山 (鈴鹿山脈)
	3	四日市市川島町	自噴井	鹿化川 (天白川水系支流) / 四日市西部丘陵地帯
	4	四日市市桜町	自噴井	三滝川 (三滝川水系本流) / 御在所 (鈴鹿山脈)
	5	四日市市桜町	自噴井 (76m)	三滝川 (三滝川水系本流) / 御在所 (鈴鹿山脈)
	6	三重郡菰野町	井戸 (40m)	朝明川 (朝明川水系本流) / 朝明溪谷 (鈴鹿山脈)
	7	三重郡川越町	井戸 (10m)	朝明川 (朝明川水系本流) / 朝明溪谷 (鈴鹿山脈)
	8	桑名市多度町	井戸 (30m)	肱江川 (木曾川水系支流) / 養老山地
中南勢地方	9	多気郡多気町	井戸 (30m)	佐奈川 (櫛田川水系支流) / 五桂
	10	多気郡大台町	井戸 (10m) / 山から宮川へ流れる地下水	宮川 (宮川水系本流) / 日ノ出岳 (紀伊山地)
	11	津市美杉町	井戸水と山の湧水	雲井川 (雲出川水系本流) / 三峯山 (布引山地)
	12	松坂市嬉野井之上町	井戸	中村川 (雲出川水系支流) / 布引山脈
	13	津市香良洲町	井戸 / 川から200mの距離	雲出川 (雲出川水系本流) / 三峯山 (布引山脈)
伊賀地方	14	名張市新町	井戸 (15m) / 山から川に流れる地下水	名張川 (木津川支流・淀川水系) / 高見山地
	15	名張市赤目町	井戸、生活用水にも利用	滝川 (名張川支流・淀川水系) / 赤目四十八滝
	16	伊賀市阿保	井戸、生活用水にも利用	木津川 (淀川水系支流) / 青山高原
	17	伊賀市上野福居町	掘り抜き井戸 (85m)	木津川 (淀川水系支流) / 青山高原
	18	伊賀市緑が丘西町	浅井戸	久米川 (木津川支流・淀川水系) / 喰代地区の山地

利用については法律や条令で厳しく規制されており、ここも例外ではなく、新しい井戸を掘ることはできない。そのため、現在の水量は豊富であるが、将来を考えて、ボイラー、冷却、器具設備の洗浄などには水道水を利用するなどして地下水の使用を制限していた。No.2 は生活用水としても使われている。No.3 は朝明川と鹿化川の間

に位置する造り酒屋の自噴井の水で、滔々と湧き出す地下水を貯水槽に受け、酒造りにそのまま使用している。溢れた分は、酒蔵の外に設置した水槽に導水し、飲用として近所の人々に提供していた。No.4、5 は三滝川近くにある2軒の造り酒屋の自噴井の水で、すぐ傍には名水百選に選ばれた智積用水が流れている。No.4 の酒

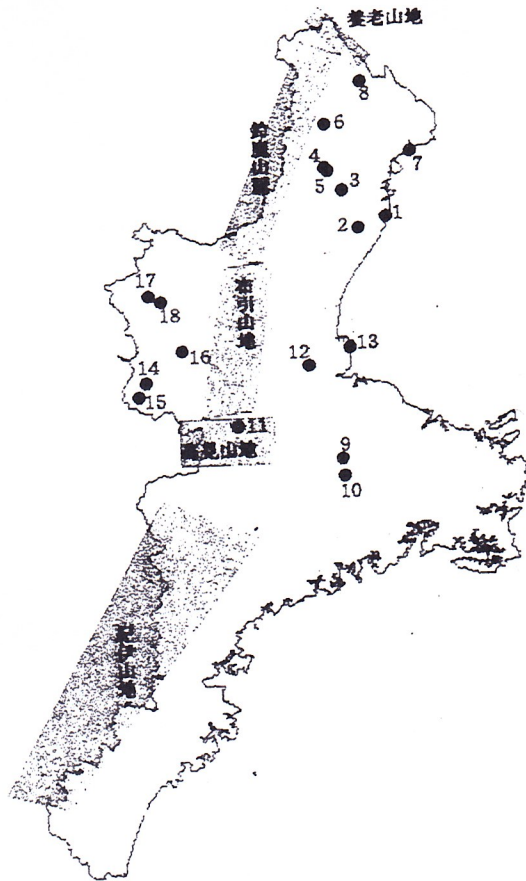


図1 調査地概図 (図中の数字は表1の試料番号)

屋では酒蔵を改装してセミナーやイベントを催したり、有志を集めて本格的な酒造りをするなど、日本酒や伝統文化への理解を深めるような企画をしていた。No.5は調理用にも利用されていた。この酒屋では、深さの異なる2つの自噴井を持ち、仕込み用と器具洗浄用を使い分けていた。No.6、7は朝明川の伏流水で、いずれも生活用にも利用してる。No.8は養老山系の地下水である。

榊田川と宮川に挟まれ、2つの川からの距離が5kmほどの位置にある造り酒屋の井戸水がNo.9である。ここの敷地内には裏山の地下水を引いた別の井戸があり、この水は器具の洗浄等に利用されていた。No.10は山から宮川に流れる地下水で、夏はそのまま生活用水として、冬は活性炭ろ過をしてから仕込みに用いている。No.11、12、13は雲出川水系の伏流水である。

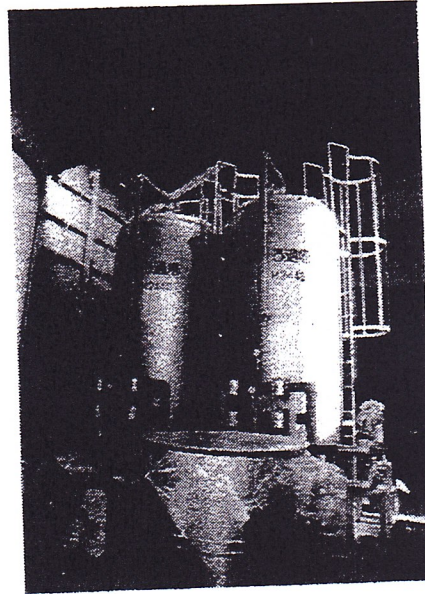


図2 活性炭ろ過装置

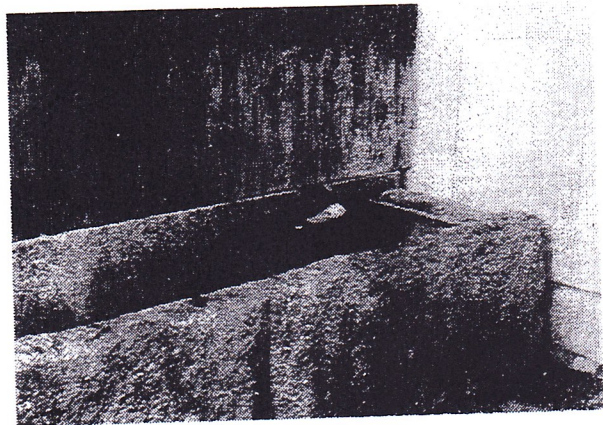


図3 酒蔵の外のタンクに導水された自噴井の水

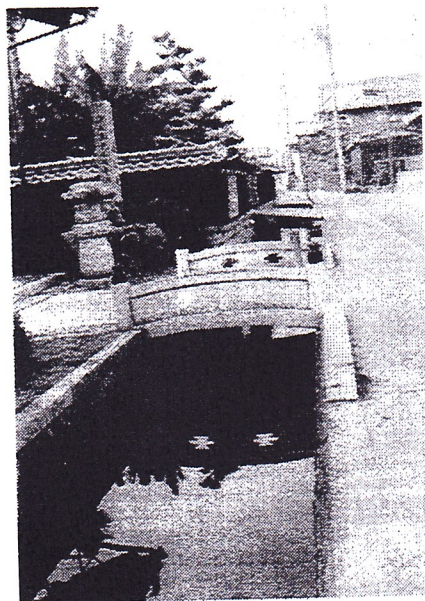


図4 貯積用水:かつては住民が生活用水にも利用したとされる

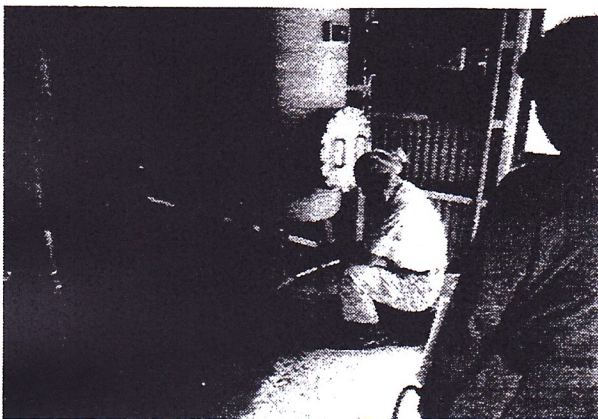


図5 独自で処理した水をタンクに貯めてある



図6 多気郡には豊かな自然が残る



図7 天然の湧き水も多い

No.11 は活性炭ろ過後、仕込み水として使われていた。No.13 の井戸は川から200m 離れている。この酒屋では、かつて利用していた井戸の周辺に木を植えて、水源の涵養に努めていた。

No.14 は山から名張川へ流れ込む地下水である。この酒屋では、これまで、水量と水質を求めて何度も井戸を移動しながら現在に至っている。水質の管理は精密ろ過や活性炭処理によっていた。ここも酒蔵を改装し、コンサートや朗読会などに場所を提供している。No.15 は赤目四十八滝の豊富な伏流水で、仕込みだけでなく生活用水にも利用されている。この水は店外の水槽にも導水され、これを汲みに訪れる人も多い。No.16 は木津川の水源に近い上流の伏流水で、冬は仕込み水、夏は生活用水としても使われていた。伊賀上野城の城下町を中心に発達した市街地は、北・南・西の3方をそれぞれ服部川(柘植川から木津川へと合流)、久米川、木津川に囲まれている。No.17 はこの市街地の西側、No.18 は南寄りにある造り酒屋の仕込水である。No.17 は精密ろ過後、大型タンクに貯蔵され、洗米、仕込み等の酒造りに使われていた。

4.2 仕込水の成分

酒造りの水は無色透明で臭気がなく汚水混入の恐れがないものとされる。かつては日本各地の身近な場所に清浄な湧き水があり、誰もが日常的にこれを利用していた。現在は、都市化や過剰開発により環境が変化し、特別な場所に行かなければおいしい湧き水を味わえなくなりつつある。表1の造り酒屋は、平野部、山間部にかかわらず、古くから集落の中心で良い水の湧出するところに位置していた。

表2-1-3に試料中の酒造りに有効な成分等を示す。上流からの距離や水系により、イオン含有量は幾分異なっているが、全ての試料は、pH7.1以下で、鉄、アンモニア、亜硝酸などの含有量は極めて微量か0であった。有機物の存在

表 2-1 北勢地域の仕込み水の成分

Samp. No.	pH	COD mg/L	Na mg/L	Cl mg/L	Ca mg/L	P mg/L	DO mg/L	遊離炭酸 mg/L
1	6.9	3	23	4.6	3.4	0.06	9.3	8.8
2	6.4	0	19	7.7	13	0.13	9.0	13
3	7.1	0	11	2.7	5.0	0.3	9.2	8.8
4	6.6	0	14	4.5	16	0.1	8.9	8.8
5	6.7	0	8	1.7	7.7	0.06	8.6	13
6	6.4	0	5	8.1	15	0	8.7	8.8
7	7.0	0	22	39	49	0.06	8.6	8.8
8	6.3	2	10	4.9	17	0.13	9.2	4.4

表 2-2 中勢地域の仕込み水の成分

Samp. No.	pH	COD mg/L	Na mg/L	Cl mg/L	Ca mg/L	P mg/L	DO mg/L	遊離炭酸 mg/L
9	6.7	0	7	2.6	18	0.16	8.3	8.8
10	6.1	0	6	2.6	8.4	0.16	8.6	7.0
11	7.0	0	7	1.4	8.7	0.15	8.6	7.0
12	6.6	0	7	3.4	11	0.1	8.8	8.8
13	6.5	0	19	10	17	0.3	8.8	18

表 2-3 伊賀地域の仕込み水の成分

Samp. No.	pH	COD mg/L	Na mg/L	Cl mg/L	Ca mg/L	P mg/L	DO mg/L	遊離炭酸 mg/L
14	6.9	0	17	7.4	55	0.16	8.8	17
15	6.6	0	9	5.4	14	0.16	8.6	13
16	6.7	0	9	3.8	11	0.3	8.7	13
17	6.8	0	17	6.9	5.5	0.06	8.9	8.8
18	5.7	0	21	8.4	12	0.1	8.9	17.6

を示す COD の値は、大半の試料が 0 であった。No.1 と 8 の値(3mg/L)は厚生省(現・厚生労働省)の「おいしい水研究会」が示したおいしい水の要件³⁾を満たすものである。酒造りに有効な成分については、P が 0.16~0.3mg/L (No.6 を除く)、Na が 5~23mg/L 溶存していた。Cl 含有量は No.7 の 39mg/L を除いて、1.4~10mg/L である。Ca は No.7 が 49mg/L、No.15 が 55mg/L で、それ以外の試料は 3.4~18mg/L の軟水である。EDTA 法の比色定量により求めた Ca 硬度と総硬度は、前者の方が低く、Mg の存在を示唆して

いる。

水のおいしさに係わる溶存ガス成分には二酸化炭素と酸素がある⁴⁾。水に溶解している二酸化炭素(遊離炭酸)は、水にさわやか味・新鮮味を与えるが、多すぎると舌を刺激してまろやかさを失う。水道法に基づく水質基準の快適水質項目では 20mg/L 以下⁵⁾と定められており、試料中の遊離炭酸はこの範囲内である。水に溶解する酸素の飽和量は水温と関係があり、10℃で 11mg/L、20℃で 9mg/L である。一般的に、おいしい水は酸素が飽和していることが多い。溶存酸

素(DO)は水中に溶解している酸素の量で、自然水の水質を表す指標の一つとなっている。生活環境の保全に関する環境基準の1級は、河川・湖沼ともに7.5mg/L以上でなければならない⁶⁾。本試料のDOは8.3-9.3mg/Lで、測定温度を考慮すると、酸素飽和度は高いと考えられる。

酒造り用水としては歴史的にも灘の宮水が有名であり、この水は生で飲むと美味いが、湧かずと濁りがでて不味くなり、お茶には不適であるといわれている。その成分の特色はK、P、Caが多く、Feが極めて少ないことで、酒造有効成分は宮水11種の平均でP 2.3mg/L、Ca37mg/L、Na 32mg/L、Cl 32mg/Lとされている^{1)、4)}。調査した試料中のこれらの成分は、宮水よりやや低めであったが、有害な成分は含有しておらず、仕込水として良質だけでなく、生活用水にも適したおいしい水であるといえよう。

5. まとめ

三重県北勢・中勢・伊賀地域の造り酒屋の仕込水の種類と成分および水管理の工夫を調べた。この地域の造り酒屋は古くから伏流水を利用しており、幾軒かは環境の変化に伴い水道水に換えていたが、多くは地下水を利用していた。これらの地下水は酒造りに有効なCa、P、Cl、Naを含んでいたが、有機物や鉄、亜硝酸、アンモニアなどの酒造りに有害とされる成分は認められなかった。大半は硬度の低い軟水で、そのまま飲用したり沸かしてお茶をいれてもおいしい水であることがわかった。この水をそのまま生活用水に利用している造り酒屋もあるが、それぞれ独自に消毒や活性炭ろ過、精密ろ過などの処理を施し酒造り用水としての水質管理をおこなっていた。現在の水量や水質に問題はないが、将来を考慮して、器具の洗浄やボイラー等には

水道水や別の井戸水使ったり、井戸の周辺に木を植えるなど地下水の涵養を図っているところもあった。

これらの酒屋では、伝統的な製法と酒本来の味にこだわる一方で、若者の嗜好に合わせてボトルやラベルのデザインを考案して新しい酒や焼酎・地ビールを製造したり、改装した酒蔵でセミナーやイベントを催すなど、酒造を通して日本の伝統文化を広め、さらに、自社を広報するための様々な工夫がなされている。

水道水は、原水が汚染されていなければ消毒とろ過程度の処理で良好な水質が得られるし、大都市でも高度浄水処理の導入によって格段にその水質が向上している。したがって、残留塩素の除去や有効成分の添加など適切な前処理をおこなえば、仕込水として地下水に劣るものではない。しかし、伝統を守り地下水にこだわることで、造り手だけでなくその酒を飲む人々にも汚染防止や水源保全の意識が生まれ、それが実際の行動を伴っていくことによって、日本の自然環境保護に役立つのではないだろうか。

参考文献

- 1) 野白喜久雄ら:「醸造学」, 講談社, 32-37(2001)
- 2) 三重県環境森林部:「平成18年度版環境白書」, 三重県, 47(2006)
- 3) 和田洋六:「飲料水を考える」, 地人書館, 144-146(2000)
- 4) 日下譲:「水と人」, 思文閣出版, 194-202(1994)
- 5) 日本水道協会:「上水道試験方法」, 日本水道協会, 5(2001)
- 6) 高橋裕ら編:「水の百科事典」, 丸善, 794-796(2001)

養生生活研究 ゆるやかなリフリーの芸術雑誌

Vol. 26, No. 1 (2005)

三重県の湧水とその泉質

高田新代、水谷光子

三重県の湧水とその実態

富田 寿代、水谷 令子

(鈴鹿国際大学)

1. はじめに

日本は、国土が狭く地形が急峻であるため、いったん降った雨は洪水として海に流れ出て、後はたちまち乾いてしまうというのが本来の姿である。しかし、日本は世界でも有数の水が豊富な国であり、国民一人あたりの水消費量は世界平均をはるかに超えている。これは、年平均降水量が多いというばかりではなく、日本人が弥生時代以降、里山の森を中心とする水田稲作農耕社会を造り上げてきたことに起因している。森の水源涵養能力は巨大で、森の樹や水田の保水能力も無視できない。これによって、山紫水明で緑と水に恵まれた風土が造られ、かつては、日本中至る所に清浄な水が湧き出たのである^{1),2)}。それが、急激な都市化や工業化とそれに伴う土地開発および地下水の過剰な揚水、さらに、米の自由化による水田の減反などにより水環境や水の流れが変化したため、都市部などで湧水を見かけることはめったになくなった。

1980年代後半から水道原水の汚染と都市部での水道水の水質悪化が問題になり、その後、水道水への不信と健康指向が重なって、安全でおいしい水への関心が高くなった。現在、国の内外を問わず地下水をボトリングしたナチュラルウォーターやナチュラルミネラルウォーター、原水や処理方法を特定しないが飲用可能な水であるボトルドウォーターなど多種多様な市販水が市場にあふれ、海洋深層水やアルカリイオン水など特殊な処理を施した水に加えて、国内の良好な水道原水や水道水まで商品化されている。一方で、郊外や山奥の湧水は、地

元の人々に飲用や生活用水として利用されるだけでなく、この水を汲むためにポリタンクを積んだ車が県外からも列をなして訪れるという現象も見られる。このような傾向は近年特に著しく、いわゆる“ミネラルウォーターブーム”や“名水ブーム”はこれからも続くものと予想される。“おいしさ”は官能評価であり、客観的に数値で表すことは難しく、これらの水についても、市販されているから安全である、評判が良いから安心であるという先入観の上においておいしい水という評価が造られたものも少なくない。昭和60年に環境庁が選定した「名水百選」は、水量が豊富で、景観が良く、周辺環境が良好で、地元住民がその水に親しみ、どの程度保全がなされているかなどを基準としており、国民の水資源・水環境保全に対する意欲を喚起し、きれいな水を自然保護に結びつけたという点で極めて大きな功績を持つものである³⁾。この選定は、必ずしも飲用を目的としたものではないが、一般的には、名水＝飲用可という概念は強く、それらの名水を好んで汲みに行く人は多い。人から人へと評判の高くなった水場には早朝から行列ができ、水を汲むためには何時間も待たねばならない。水場の管理者が自主的に水質調査をおこなっているところもあるが、多くは実際に飲んだ結果や調理などに使った感想が口伝えに広まり高い評価となったものであろう。

三重県は南北に細長く、西に伊賀盆地、東に志摩半島が突き出ている。伊勢平野の東側は伊勢湾と熊野灘に面し、西側は鈴鹿山脈、布引山脈と大台山系などの紀伊山地が覆っている。前

述の名水百選に入っているのは三重県には2つだけであるが、紀伊山地は日本有数の多雨地帯であり、豊かな水系に恵まれている。本報では、三重県の湧水について由来や言い伝えと共に水質を調べ、その実態について検証する。

2. 調査地および分析方法

三重県の北勢、中勢および南勢地域の自然水や評判の湧水について、伝承されている由来や味などの感想を中心に聞き取り調査をおこなった。さらに、その湧水を採取し、水質を調べた。pH、電気伝導度(EC)、DO等はマルチ水質モニタリングシステム(ホリバ)を用い、各イオンはイオン電極法で測定した。硬度、アルカリ度、CODは上水道試験方法に従って求めた。

3. 結果及び考察

表1に採取試料の詳細を、図1に調査地の概図を示す。図中の数字は表1の試料番号である。試料は、鈴鹿山脈、布引山脈、紀伊山地の湧水か、それぞれの山地に端を発する河川の伏流水である。全試料において NH_4^+ 、 NO_2^- 含有量は0で、鉱酸酸度も認められなかった。

3.1 評判の湧水の詳細とその水質

表2に水を汲むために多くの人が訪れる湧水とその水質を示す。

かつての東海道と伊勢街道の分岐である追分には二の鳥居があり、この下には清浄な水が湧き出ている、街道の水場となっていた。No.2はこの湧水である。水場は現在でも交通量の多い2つの国道に挟まれていて、周辺に駐車スペースはないが、この地方でかなり知られた湧水の一つで、県を越えて訪れる人も多く、ポリタンクに水を汲む人の姿が絶えない。定期的に水質検査をおこない、その結果が掲示されている。No.3は湯の山温泉に向かう県道沿いの山からの湧水で、竹のパイプで導水され、石を削り抜いて造られた水場の隣には山神が祀られてい

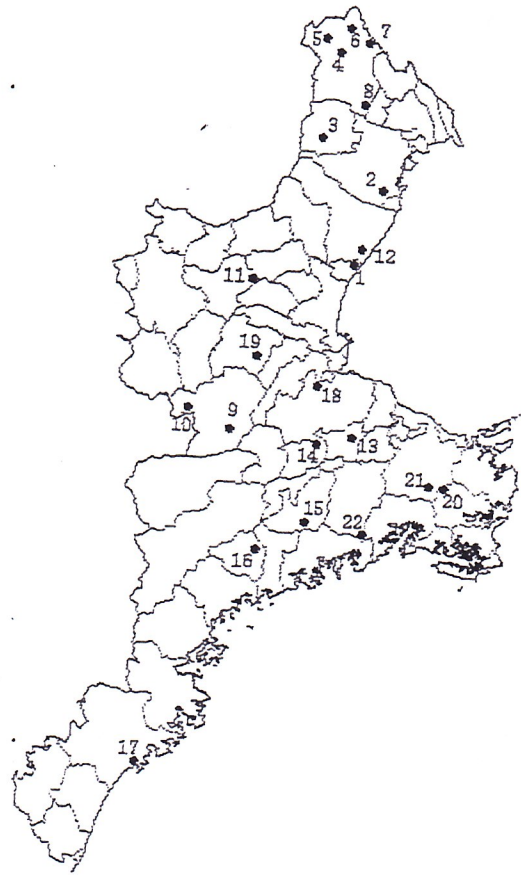


図1 調査地概図(数字は表1の試料番号)

る。

No.4はいなべ市藤原町にある聖宝寺の庭園の下方に湧き出している水で、藤原岳への登山道唯一の水場となっている。藤原町では鍾乳洞からの湧水を上水道の水源としているが、洞窟内の壁や床からしみ出した水をパイプで外へ導水している。この水がNo.5で、国道からかなり奥まったところにあるが、近隣から大勢の人がポリタンクを持って水を汲みに来ている。藤原岳は鈴鹿山系の北部に位置し、全山石灰岩からなっており、No.4、5ともに、pH7.9で、硬度が高い。No.7は、濃州通路と呼ばれた美濃国への山道に設けられた関所である北田代番所(通称桜番所)跡の湧水である。数本のパイプで導水し、水場が造られている。三重県と岐阜県の県境の山奥にあり、近隣だけでなく県外

表1 採取試料の詳細

Samp. No	採取日	採取地	試料の名称	特記事項
1	2002.07.30	安芸郡河芸町上野	弘法さんの井戸	電動ポンプ井戸
2	2002.08.01	四日市市小古管東	追分鳥居の水	水量は多い、19℃
3	2002.08.02	三重郡菟野町三之瀬	三之瀬山神の水	水量は多い、17℃
4	2002.08.05	いなべ市藤原町坂本	長命水	12℃
5	2002.08.05	いなべ市藤原町篠立	鍾乳洞の湧水	15℃
6	2002.08.05	いなべ市北勢町川原	白滝	21℃
7	2002.08.05	いなべ市北勢町東貝野	桜番所の水	水量は多い、11℃
8	2002.08.05	いなべ市大安町梅戸	梅戸の地下水	自噴、19℃
9	2002.08.09	一志郡美杉村上多気	鶯の泉	13℃
10	2002.08.09	一志郡美杉村太郎生	倶留尊山の水	17℃
11	2002.08.22	阿山郡大山田村長野峠	長野峠の水	峠の水場
12	2002.08.22	鈴鹿市秋永	秋永の湧水	
13	2003.10.17	多気郡多気町仁田	二つ井戸	弘法大師縁の井戸
14	2003.10.17	度会郡大宮町滝原	噴登川	大内山川の支流
15	2003.10.17	度会郡大宮町阿曾	八重谷湧水	15℃
16	2003.10.17	度会郡大内山村	知恵の水	別名 頭之水
17	2003.10.17	熊野市大泊町	清滝	別名 観音滝
18	2003.10.18	松阪市伊勢寺町	八功德水	横滝寺霊泉
19	2003.10.18	一志郡白山町南家城	諏訪のこぶ湯	水量は少ない
20	2004.09.05	志摩郡磯部町恵利原	恵利原の水穴	水量は多い、14℃
21	2004.09.05	伊勢市今在家町高麗広	お伊勢さんの水	
22	2005.06.27	度会郡南勢町押淵	押淵山水	

からも水汲みの人が訪れるが、夏季は特に多い。EC、硬度ともに低く、くせのない味であった。

No.9は美杉村の山林の湧水で、かつては峠を越える人が乾いたのどを潤すために利用していた。国道沿いに造られた水場やベンチなどは地元の人々によって整備されたものである。

No.10は県道沿いの商店主が個人で倶留尊山

の湧水を導水したもので、店の横の水場は無料で開放され、近在の人がよく水を汲みにきている。

No.19は家城神社沿いの林道から雲出川に降りる途中に湧く温泉水で、湧水口は屋根で囲まれ石造りの湯受けが設置されている。泉質はメタホウ酸、泉温は16.3℃、飲用にあたっては医

師の指示を受けることが望ましいと掲示板にあり、飲用量や飲み方なども指示されている。皮膚病に効くと伝えられ、神社が管理し、成分表も掲示されている。川縁にも同様に温泉が湧いており、こちらの湧水口付近はゴミなどが入り込まないように青いビニルシートで覆ってある。特別な表示はないが、この温泉水を汲む人も多い。大勢の人が集まるため、この地区の人のみが水を汲み取る日と地区外の人でも汲み取ることができる日が曜日によって決められている。試料は、pH9.2で、 Ca^{2+} の含有は極めて少ないが、 Na^+ 、 Cl^- とともに NO_3^- 含有量が多く、アルカリ度が高い。温泉水としてそのまま入浴や洗顔、化粧水の代わりに用いる以外にも、一晩放置して硫黄臭を除いてから、飲用や炊飯などの調理にも利用されていた。

No.20、21は伊勢神宮周辺の水である。前者は、石灰岩層の洞窟から湧き出したもので、硬度は高い。名水百選にも選ばれていて、駐車場から水場までは幾分離れているが、水汲みの人は絶えない。この水穴は、天照大神が隠れ住んだ「天の岩戸」とも伝えられ、古くから信仰の対象として崇められてきた。湧水は神路貯水ダムに注ぎ、志摩地方の貴重な生活用水となっている。後者は、五十鈴川上流域の神宮林として立ち入り禁止になっている山の岩場から湧き出す清水である。銀名水とも呼ばれ、コーヒーやお茶を点てるためにこの水を汲みにくる人が多い。No.22は暖地性シダ群落地に近い山からの湧水で、近在の人が水を汲みに訪れている。イオンの含有は少ないが、DOが若干低い。

調査した試料のいくつかは、雑誌やガイドブックなどに紹介されているが、その他は、地元の人から県外の人へと評判が伝わり広く知られるようになったのであろう。好まれる湧水に決まった特徴はなく、硬水、軟水、温泉水を問わず、評判が評判を呼んで、近隣だけでなく遠方からも多くの人が集まり、常に水汲みの行列ができるようになったと思われる。

ほとんどの人は一度に4つまたはそれ以上のポリタンク（18〜20L程度）に水を汲み、駐車場と水場が離れている場合には持参の手押し車にポリタンクを載せて運ぶ。湧き出し量が多くても、一人が大量に汲むため所要時間が長くなり、これが行列の一因ともなっている。一人あたりポリタンク2つまでと汲む量を規制している水場もある。汲んだ水は、家族全員の飲用や調理用として利用し、2〜3ヶ月を目途に使い切ることが多いが、汲み置いた水を半年以上かけて使うという人もあった。水汲みの頻度は、自宅から湧水までの距離によっても異なるが、概ね年に5〜6回程度である。ポリタンクの中に竹炭などを入れて保存に気をつけている人もあったが、大半はそのまま室内や日陰に置いてある。また、茶や調理など加熱して使用することが多いが、水割り用として、あるいは冷やしてそのまま飲む場合もある。水を汲みに来ている人の感想は、どこの水場でも、この水はおいしい・蓋をしておけば1年以上置いても悪くならない・体調が良くなる・健康によい・米を炊くと美味しいなどというものが多かった。

試料は石灰岩層の影響を受けているNo.4、5、20と温泉水のNo.19を除き、pH7前後で硬度の低い軟水であった。いずれもCODは0で成分的にも問題はなかったが、一般細菌や大腸菌類が検出されたものもあり、煮沸して使用するのが望ましい。地元の慣れた人はそのまま飲むことが多いと聞くが、水場によっては自然水であるため生水で飲まないようにとの注意が書かれているところもある。炊飯においては、一般に硬水や食塩水で炊いた飯は硬いといわれ、乳酸カルシウムや食塩の添加が飯の組織形成に及ぼす影響についても報告されており、ここにおいて、乳酸カルシウム0.05M、塩化ナトリウム1%で、米の吸水率や飯粒の硬さに影響を与えている^{4),5)}。試料No.5は硬度110mg/L、No.21は100mg/Lで、No.19は Na^+ 、 Cl^- 含有量

がそれぞれ 80、73mg/L である。これらの値は報告された濃度より低く米飯組織に影響を与えるほどではないが、山の湧水で炊飯するという価値観と湧水に含まれるミネラル分によりおいしく感じたものと推測される。

3.2 その他の自然水の詳細と水質

表3にその他の自然水とその水質を示す。

No.1、15は弘法大師伝説の井戸である。No.1は伊勢街道の水場として重要な役割を担い、昭和40年頃までは町の共同井戸として地域の々の生活を支えてきたが、現在は、近所の有志で管理・保全・祭礼を継承し、井戸の掃除は4月と8月におこなわれている。この試料のpH値が低いのは、ほとんど利用されていないため溜まった水垢などによると思われる。No.15は住宅街の一角に残され、1m四方ほどの湧水受けには金魚が飼われていて、かつての和歌山街道と新熊野街道の分岐の水場の名残はない。

No.6は北勢町の東林寺東側にあり、養老の裏滝とも呼ばれ、夏期には子供を連れた多くの家族が水遊びに訪れる。No.8は住宅脇の空き地で自噴していたもので、この水を汲んでいる人はいなかったが、この辺りが地下水に恵まれていることを示している。No.12は集落の中に湧き出し、かつては子供や大人が農作業の合間により飲用していたものであるが、今はコンクリートで固めた駐車場の隅で自噴している。地元では、農業で水が悪くなったので使われなくなったと言われ、試料のpHは低く、 Na^+ 含有量が幾分多い。

No.15は大宮町八重谷の湧水口で、人里離れた山の奥で滔々と湧き出している。周辺はキャンプやピクニックができるような簡単な施設が造られているが、あまり大勢の人が訪れているようではない。硬度は高いが、この水を利用してワサビ栽培がおこなわれており、清浄な水であることがわかる。

No.16は頭之宮四方神社の境内奥にある唐子

川の岸に湧いている水で、飲むと頭が良くなると伝えられる。毎年の如月神事にはこの水の御利益を求めて多くの受験生が訪れる。また、この水で元旦に雑煮を作って食べると良いとも言われている。No.18は松阪市の横滝寺に湧く霊水で眼病が治ると伝えられ、横滝観音の命日とされる毎月14日には参拝者で賑わう。No.16、18は名水ブームとは異なるが、信仰によりこの水を求める人が多く、いずれも神社や寺で良く管理されている。

以上の試料は、特に水を汲むために人が訪れることはないが、水場周辺には自然が残され、良く整備されていた。CODの値から有機物が若干含まれているものもあるが、比較的良好的な水環境であるといえる。

表2と3に示した硬度とアルカリ度の相関を図2に、同様に Na^+ と Cl^- の相関を図3にそれぞれ示す。図2よりNo.8、19はアルカリ度が、また、図3よりNo.12は Na^+ 含有量が多く、やや相関から外れている。他の試料は、多少ばらつきもあるが、総じて、硬度とアルカリ度、 Na と Cl のそれぞれのバランスは良い。

4. 結論

三重県の北勢、中勢および南勢地域の自然水や評判の湧水について、由来や伝承を調べ、その水質を調査した。その結果、三重県には、山奥や川の上流域だけでなく町の中にも評判の高い湧水が数多くあり、その他に、景勝地をひかえた滝や川も多い。水を汲むために沢山の人が訪れる湧水は、かつての街道や峠の水場が現在まで保存・管理され評判が高くなったもの、信仰とともに古くから大切にされ親しまれてきたもの、導水された湧水の評判が人づてに広まったものなどがある。また、滝や湧水口などの自然水の他に信仰や伝説を持ち地域の名所となっている水場もあった。調査した湧水は水場周辺の環境が良く管理され、多少硬度に差があったが、成分的に問題はなく、三重県には良

表2 評判の湧水の水質

Samp. No.	試料の名称	pH	EC ms/m	DO mg/l	ORP mV	Na ⁺ mg/l	Cl ⁻ mg/l	NO ₃ ⁻ mg/l	Ca ²⁺ mg/l	全硬度 mg/l	総アルカリ度mg/L	COD mg/l	一般細菌	大腸菌
2	進分鳥居の水	6.6	10	10.3	286	9	7.88	10	13	25	25	0	0	0
3	三之瀬山神の水	7.2	6	9.5	245	4	2.83	14	6.3	25	25	0	11	5
4	長命水	7.9	24	8.7	243	2	4.29	17	54	135	170	0	40	50
5	鍾乳洞の湧水	7.9	22	8.5	244	2	4.46	16	34	110	120	0	0	0
7	桜番所の水	7.2	4	8.6	374	6	2.52	8.4	0.98	10	25	0	0	0
9	鶯の泉	7.1	11	8.5	283	5	1.39	4.4	13	50	50	0	60	14
10	倶留尊山の水	7.0	5	8.5	290	4	1.23	3.5	2.1	8	25	0	0	0 (十)
19	諏訪のこぶ湯	9.2	39	8.4	170	80	73	56	0.008	0	110	2	0	0
20	恵利原の水穴	7.6	27	8.59	211	9	10.1	24.9	5.63	100	90	0	6	4
21	お伊勢さんの水	7.4	22	8.65	232	8	6.15	18.8	1.20	60	55	0	11	9
22	押淵山水	6.5	3.9	7.11	313	-	1.23	4.98	2.58	15	30	0	0	5

表3 その他の自然水の水質

Samp. No.	試料の名称	pH	EC ms/m	DO mg/l	ORP mV	Na ⁺ mg/l	Cl ⁻ mg/l	NO ₃ ⁻ mg/l	Ca ²⁺ mg/l	全硬度 mg/l	総アルカリ度mg/L	COD mg/l	一般細菌	大腸菌
1	弘法さんの井戸	6.0	15	9.1	289	6	19.7	14	7.4	45	60	6	24	2
6	白滝	7.9	7	8.7	338	6	4.56	14	5.8	15	35	0	50	50
8	梅戸の地下水	7.3	13	8.4	313	14	5.19	11	7.1	37.5	80	5	0	0
11	長野峠の水	6.4	9	8.8	400	6	2.63	4.4	4.2	25	30	0	5	0
12	秋永の湧水	6.3	25	8.9	364	26	8.32	20	13	65	65	0	0	0
13	二つ井戸	7.0	18	8.6	332	9	7.6	20	18	75	55	6	0	0
14	頃登川	7.2	5.9	8.6	299	5	3.7	13	2.7	25	25	6	8	0
15	八重谷湧水	6.9	16.9	8.5	270	4	4.5	18	50	105	95	6	10	0
16	知恵の水	7.1	7.7	8.5	265	4	3.7	15	14	40	35	2	0	0
17	清滝	7.2	5.3	8.4	260	5	5.1	13	5.1	20	25	2	0	4
18	八功徳水	7.1	8.6	8.4	263	7	6.9	13	5.6	35	30	2	4	2

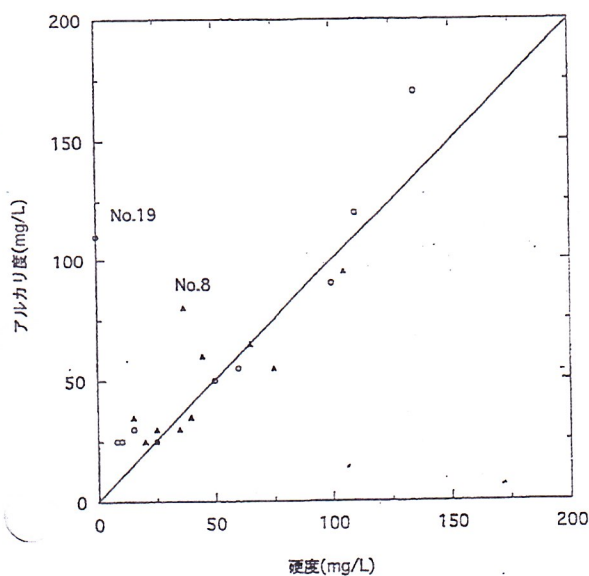


図2 硬度-アルカリ度の相関
○評判の湧水、▲その他の自然水

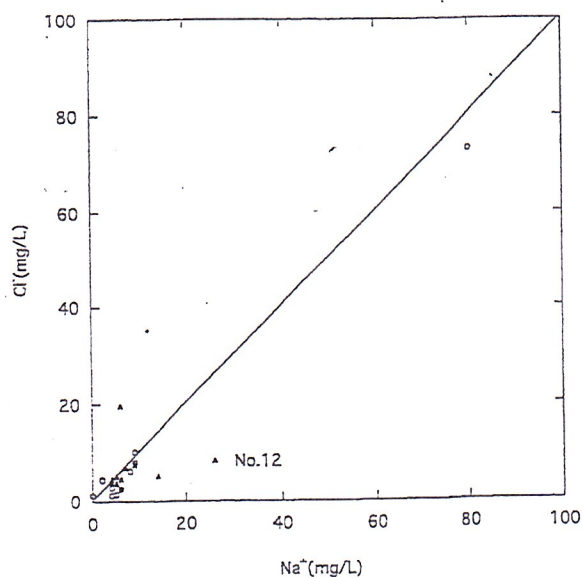


図3 Na⁺-Cl相関
○評判の湧水、▲その他の自然水

好な水環境が多く残されているといえる。これらは、神社や寺、自治体だけでなく地域の人々によって整備・管理・保全されているものも多く、特に、日常的な清掃や維持には地元ボランティアの努力はかかせない。

水汲みの人が集まる湧水の評判については科学的な根拠がないと思われるものも多かったが、いずれの湧水も良質な水であった。名水ブームで清浄な湧水に人々の関心が向けられ、自然保護に対する意識が高まるのは歓迎すべきことである。しかし、その一方で、吸い殻や空き缶などが放置されていた水場もあり、現在は良好であっても、多くの人を訪れることによって水場が荒れてしまうことも懸念される。施設の管理や環境の保全は地元で頼るところが大きいですが、訪れる人は清浄な湧水が残されている事とそのため努力を意識しながら、水汲みのマナーを守り、水場を汚さないよう心がけることが大切である。

水場によっては、交通量の多い国道沿いに位置していて、排気ガスやSPMによる大気汚染が

著しいところもあり、また、将来的に、道路や住宅開発により水の流れが変化することもありうるため、長期的な水場周辺環境の整備や上流域の保全も必要であろう。


文献

- 1) 安田喜憲：文明の環境史観、中央公論社 (2004)
- 2) 福岡克也：森林と水の物語 (日本の名水)、読売新聞社、131-134 (1991)
- 3) 富山和子：名水が育んだ日本文化 (名水めぐり)、昭文社、4-5 (2003)
- 4) 大西真理子、庄司一郎、小川宣子、加藤好光、長岡俊治、下村道子：カルシウムイオン水が炊飯における飯の組織形態に及ぼす影響、家政学会誌、53(11)、1087-1096(2002)
- 5) 大西真理子、庄司一郎、小川宣子、中上寧、長岡俊治、下村道子：米飯の硬さおよび組織に及ぼす食塩添加の影響、家政学会誌、55(4)、305-313(2004)

四日市

鈴鹿・龜山

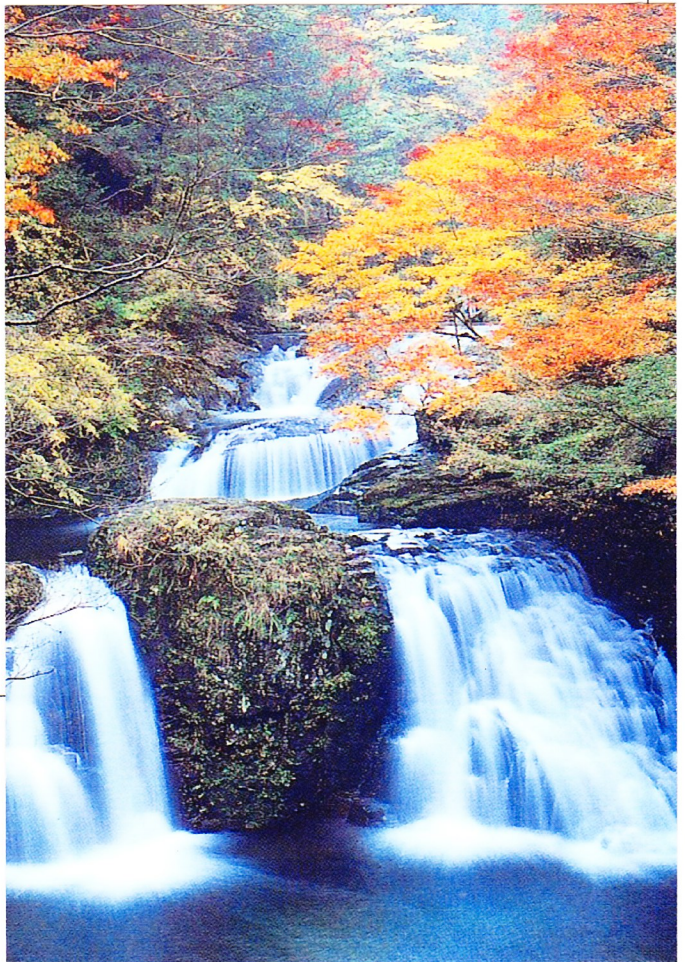
名 水

クラブ名	鈴鹿西ロータリークラブ
名水の名前	鈴鹿川
住所	三重県北部
云われ および写真	<p>川の名前の由来</p> <p>鈴鹿川は、大海人皇子が東国への途中、洪水に難渋しているところに 駟路鈴をつけた鹿が現れ、その背に乗って川を渡ったという伝説から この名がついたとされています。</p> <p>鈴鹿川は三重県関町と滋賀県土山町、甲賀町の境にある高畑山にその 源を発し、幾つもの溪流を合わせながら、関町で滋賀県との県境を成 す鈴鹿山脈的那須ヶ原岳（標高 800m）東麓に発し、三重県北部をほぼ 東流して四日市市南端で伊勢湾に注ぐ川です。</p> <p>主な支流は加太川（亀山市、伊賀市）安楽川（亀山市、鈴鹿市） 御幣川（鈴鹿市、亀山市）内部川（四日市市）</p> <p>鈴鹿市の水道水は、鈴鹿川の地下水を主な水源としているため、水量 が豊富でミネラルが多く含まれた「美味しい水」です。</p>  <p>鈴鹿橋から下流方を望む 伊勢鉄道を「ワイドビュー南紀5号」が走 っている</p> <p>※ 画像はネットで公開されているものをコピーしました。</p>

中勢・伊賀

名 水

クラブ名	名張ロータリークラブ
名水の名前	赤目四十八滝
住所	名張市赤目町長坂
云われ および写真	<p>滝のある溪谷はおよそ4kmにわたって続き、山頂を挟んで香落溪(におちたに)へとつながっている。溪谷は四季折々に楽しめるハイキングコースとなっており、紅葉の名所としても知られていて、秋には関西・中京方面などから多くの観光客で賑わいを見せる。</p> <p>溪谷は、世界最大級の両生類の一つである「オオサンショウウオ」の棲息地として知られ、滝への入り口の付近には飼育・展示施設の日本サンショウウオセンターがある。</p>



水と緑

クラブ名	津ロータリークラブ
場所の名前	片田・野田のため池群
住所	三重県津市片田
云われ および写真	別紙資料をご覧ください。

片田・野田のため池群について（水と緑）

水源豊かな、緑多き、美しき国、三重県には、伊賀盆地と伊勢平野に集中して、約 3,500 個のため池があります。そのうち、津市には 389 個のため池があります。また、津市に有る 2ha 以上の農業用ため池が 29 個あります。

ため池の概要としては、ため池とは、“降水量が少なく、流域の大きな河川に恵まれない地域などで、農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう、人工的に造成された池のことである。”とされています。また、ため池の歴史として、ため池は、新田開発や用水不足解消を目的に、古代から近代にわたる長い歴史の中で築造され、現代に至っても貴重な水源として農業の礎（いしずえ）の役割を果たしています。

平成 22 年 6 月には、岩田川流域の里山に広がる“片田・野田のため池郡”として、農林水産省が選定した“ため池百選”の 1 つに選ばれました。

上空から見る、片田・野田のため池群（津市）



ため池群の風景



さわやかな春の風景



尾ヶ峰下池

有機米を栽培している水田が見え、その奥にハンノキの樹林が見える、
のどかな里山と自然の豊かさが満ち溢れている風景

この“ため池百選とは、農業者の減少、高齢化の中で管理が難しくなりつつあるため池について、その歴史や多様な役割、保全の必要性を国民の皆様に理解いただく契機とするため、農業用の水源として秀でた特徴を有する全国のため池 100 地区を「ため池百選」として選定したものです。その選出内容は、次の 5 つの視点のうち 1 つ以上において特に秀でた特徴があるものとされ、片田・野田のため池郡は、全てにおいて、秀であったと評価されました。

その評価内容は、以下の5つの視点からです。

【農業の礎(いしずえ)】

- 大規模な農業地帯の水源の重要な一翼を担っているもの
- 高付加価値型農業など特色ある農業や産地形成の礎となっているもの
- 新田開発に貢献したもの
- その他農業振興との関わりにおいて特に秀でた特徴を有するもの

【歴史・文化・伝統】

- 長い歴史や由緒を有するもの
- 地域の人々が苦労して造りあげた築造の記録が残るもの
- ため池にまつわる伝説等が語り伝えられているもの
- 歴史的文化的価値の高い伝統行事が引き継がれているもの
- 歴史的な価値を有する設備を備えているもの

【景観】

- 豊かな自然に囲まれた美しさを有するもの
- 周囲の農村風景に溶けこんでいる美しさを有するもの
- 貯水池に浮かぶ水生植物や水鳥などと調和した美しさを有するもの
- 提体等の美しさを有するもの
- 良好な景観を保全するための特色ある取り組みが行われているもの

【生物多様性】

- 渡り鳥の飛来地として重要な役割を果たしているもの
- 多様な生物や特色のある生物の生育・生息に適した環境が保たれているもの
- 生態系のネットワークの要になるもの
- 生態系を保全するための特色ある取り組みが行われているもの

【地域とのかかわり】

- 地域住民等の参画によるため池の保全や防災・減災活動が行われているもの
- 地域の子どもたちの学習に活用されたり、地域コミュニティ活動の場として活用されているもの
- 散策路、親水施設等が整備され、地域の人々が日常的に水辺、親水空間として活用しているもの
- 都市農村交流や地域活性化の場として、スポーツ、レクリエーション、グリーンツーリズム等に活用されているもの
- 地域の人々の暮らしを支えているもの

片田・野田のため池群について

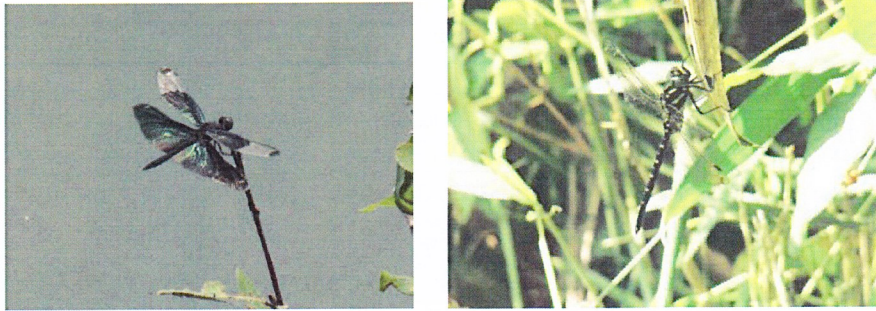
片田・野田のため池群(津市)は、岩田川を中心に広がる里山に数多くの谷池が点在する自然の宝庫です。春の訪れとともに、ため池の水が放され、稲を育み、自然豊かな里地、里山を形成しています。また、片田・野田のため池群の中の、赤池・池尻池は、連絡水路で繋がった二重構造になっており、赤池の面積は、約 24,700 m²、池尻池は約 14,100 m²です。赤池は、江戸時代初期かそれ以前の築造と伝えられています。赤池だけで周辺の水田約 40ha を灌漑しており、ため池群全体では 60～70ha を灌漑しているとみられます。



赤池と池尻池

ため池群を巡る道すがら、春夏秋冬の樹木や花等の色彩の変化を楽しみ、動植物の観察も楽しむ事が出来ます。

ため池群周辺に生息する“とんぼ達”



2008年時点での調査結果として、観察したトンボ類は、総計40種類となりました。また、ため池周辺の林間の道では、ウグイスやシジュウガラなどの小鳥の歌声を聞きながら、色々な種類の植物等を観察することが出来ます。冬には、カモ類を観察することが出来、これらのため池群は、多くのため池と林地で構成された、自然の生態的ネットワークを形成しています。

また、これらのため池群は、農業用水以外の他、防火用水としても古くから利用された経緯もあり、その多くは自治会で管理をされており、地域とのかかわりが深く、地域ぐるみで保全管理をしているのが特徴でもあります。

これらのため池群を活用した自然観察、環境学習を実施している学校や地域団体、非農家の住民の存在が重要とされています。今後、このようなため池群で自然と環境を学ぶ事が一層重要であり、盛んになっていく事が大切であると考えます。また、この百選を通して、ため池群を保全する地域が一丸となり、この素晴らしい里地・里山を後世に継承していく事が求められていると同時に大きな期待もされていると思います。

名 水	
クラブ名	熊野ロータリークラブ
名水の名前	新鹿海岸
住所	熊野市新鹿町
云われ および写真	<p>環境庁の「快水浴場 100 選」に選ばれた、熊野市新鹿湾に広がる波穏やかな遠浅の海。キメの細かい白い砂と蒼く透き通った海水が特徴の美しい浜。</p> <p>多くの海水浴客が訪れ、シーズンは大変な賑わいをみせます。GWや夏休みにはキャンプを楽しむ家族連れ等が多く見られ、近年ではシーカヤックなどのマリンスポーツを体験することができるなど、アウトドアライフを満喫する基地になっています。</p>  

名 水


クラブ名	熊野ロータリークラブ
名水の名前	七里御浜海岸
住所	熊野市

云われ
および写真

熊野市から紀宝町に至る **22km** 続く日本で一番長い砂礫海岸「七里御浜」は、「世界遺産（浜街道）」「日本の渚百選」「21世紀に残したい日本の自然百選」「日本の白砂青松百選」「日本の名松百選」に選ばれた美しい海岸地域です。

昔、熊野詣でをする人々にとっては、「浜街道」として、また西国三十三所を目指す巡礼者が多く歩いたことから「巡礼道」とも呼ばれ、信仰の道としての役割を果たしていました。また、春から夏にかけてアカウミガメが上陸する地としても知られています。




名 水	
クラブ名	熊野ロータリークラブ
名水の名前	布引の滝
住所	熊野市紀和町
云われ および写真	<p>日本の滝百選「布引の滝」は、長い年月をかけて熊野花崗岩の岩盤を削り取ってできたもので、滝は四段からなり、一段目は12m、二段目は3.5m、三段目は7.7m、そして四段目は29.1mの落差をもって滝壺にその流れを落ととしています。名称の由来は、その名が示すとおり水の流れが大巾の布地を垂らしたように音もなく、飛沫もたてずに流れ落ちる様からついたものです。熊野市では、豊かな自然を保全するために、永久に伐採しない樹林を設置する「熊野市きらずの森条例」が制定しており、布引の滝付近一帯の森が「きらずの森」に指定され、豊かな自然がそのまま守り続けられています。</p> <p>秋には紅葉も見られ、より一層美しさが映えます。また、周辺には、「八丁大滝」「隠れ滝」「松山滝」「荒滝」がありますので、滝めぐりを楽しむことができます。</p>
	

名 水

クラブ名	熊野ロータリークラブ
名水の名前	雨滝
住所	熊野市育生町
云われ および写真	<p>清らかな水をたたえるこの滝は、雨乞いの地でもあり、日照りが続くとお寺の鐘を滝壺に浸けて祈祷したと言われてい ます。また、アメノウオ伝説も残されています。</p>  

名 水

クラブ名	熊野ロータリークラブ
名水の名前	大又川
住所	熊野市飛鳥町
云われ および写真	<p>大又川は熊野川の上流であり、北山川の上流、源流域である大又川流域は、山と川自然の宝庫。河口から160～180キロの地点が、熊野灘に出るには車で15分という、すなわち磯釣りや溪流釣りが15分圏内という日本でただ一つの貴重な流域です。</p> 

名水

クラブ名 松阪ロータリークラブ
名水の名前 無名、と「森の番人」
住所 三重県多気郡大台町岩井字持山谷と、三重県多気郡大台町大井 663-2、「森の番人」、(有) 森と水を守る会
TEL、0598-77-2819

云われ及び 写真

大杉谷の水は古来より森林が鬱蒼と生い茂り、豊富な水を育んできた。一級河川の宮川は水質調査全国一位に H.24 年度過去連続 6 回、今迄 11 回の一位に輝いている。(3,12,14,15,16,18,19,20,21,22,23 年) 調査結果は各翌年に発表されている。その水源の一つになっている我家の少し上流、道路工事の法面から出ている水が地元民は元より、県内各地、愛知県、奈良、大阪方面から人々が水を汲みに来る。又、大台町(旧宮川村)では、第三セクターとして、宮川に流れ込んでいる春日谷川の源流より取水して水を販売している「森の番人」がある。此方は販売をして田舎の人達の雇用の場になっている。





伊勢

志摩・鳥羽

名 水	
クラブ名	伊勢中央ロータリークラブ
名水の名前	川上の清水 倭姫伝説の神水
住所	三重県度会郡度会町川上
云われ および写真	<p>伊勢の地に天照大神を祀った皇女とされる倭姫命が飲んだと言い伝えられている湧水（まろやかな水）</p>   <p>川上地区の方々により石積みされ、整った水場になっている</p>

名 水

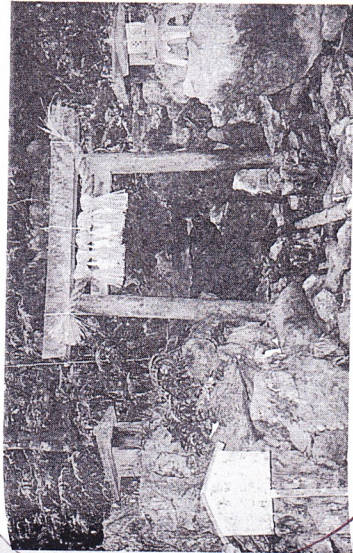
クラブ名	志摩ローマリーフクラブ
名水の名前	天の岩戸
住所	三重県志摩市磯部町惠利原 ^{えりぼり}
云われ および写真	<p>惠利原逢坂山中腹に石灰岩の洞窟あり。昔この水を「天の岩戸」と呼んで尊崇し、この付近一帯を「高天原」と呼んでいた。</p> <p>この洞窟からはきれいな水が流れ出る。四季を通じて流量は変化せず、磯部川の源流といわれている。</p> <p>「背割腹割」と呼ばれる狭い洞窟と奥の庭とがたいていこの水。ここには水の神がまつられている。この洞窟を「鏡岩」と呼んでいる。</p>



三名勝、史跡

天の岩戸

恵利原逢坂山の中腹に石灰岩の洞窟があり、昔からこれを「天の岩戸」と呼んで尊崇し、この付近一帯を「高天原」と呼んでいた。この洞窟からはきれいな水が流れ出て、四季を通じてその流量に変化がなく、磯部川の源流となっている。



天の岩戸

「背すり腹すり」と呼ばれる狭い洞窟を奥へ進むと広いところがあり、そこには水の神がまつてあり、

そうしたことからこの洞窟を「瀧祭窟」とも呼んでいる。

高山彦九郎日記には「安永三年（二七七四）二月八日瀧祭窟とぞ、岩窟より清水流れ出ずる」と記されているとのことである。こここの境内には江戸時代の碩学、斯波尚艸が天の岩戸を詠んだ「神奇巖洞幾千年中に一尋の玉水懸るあり心灯を滅却して鉄壁に坐す始めて知る身骨を固くして天に同じきを」の詩碑が建っている。また天の岩戸の付近には「御池さん」とも「風穴」とも呼ばれる、石灰岩の洞窟がある（民俗編参照）。

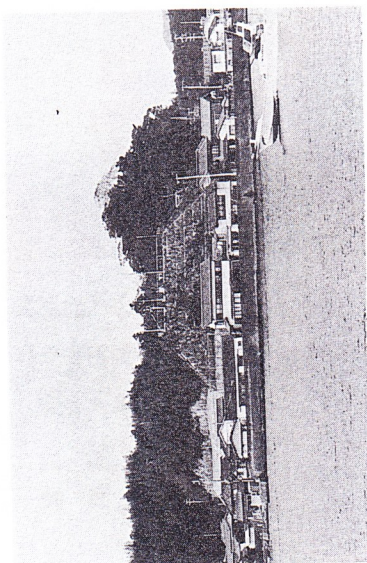
鸚鵡石

恵利原和合山頂にある石がそれである。石は高さ三メートル、幅二二七メートルのチャートである。「語り場」からの声が、約五〇メートル隔てた鸚鵡石にこだまして「聞き場」にいる人にはちょうど石がものを言っているように聞こえること

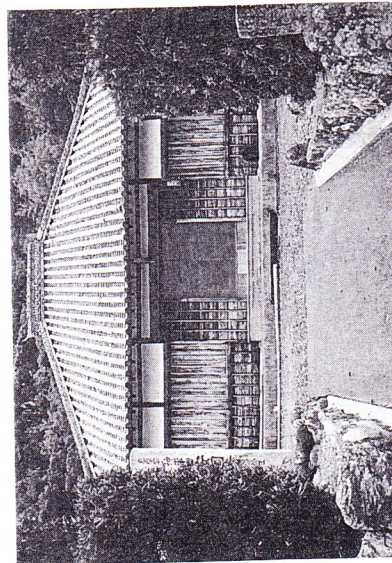
から、この名がついたという。これは地形による物理的現象であるが、そうしたことから鸚鵡石の名がつけられたという（本編資料参照）。

的矢城跡

的矢の八幡山にあり、現在城跡には的矢村神社がまつられており、黒船に備えて築かれた台場跡が残っているが、築城当時のものとしては、わずかに「堀切り」が残されているだけである。この城は鎌倉時代の末期ごろに、伊雑浦惣校左衛門尉物部泰実によつて築かれたものといわれている。この場所は的矢湾がせばまって、伊雑浦に続くところである。「志陽略誌」には「的矢城跡、在小的矢



的矢城跡



安国寺

村的矢美作守是築所地也為転勸地矣」とあるが、その遺構はほとんど認められない。

安国寺

安国寺は全国六六か所に建てられたといわれているが、そのうち現存するものは三六か所、廃址の認められるもの一〇か所といわれており、沓掛の安国寺は歴史のうえからも、文化財

文字サイズ **大** **標準** **小**
[サイトマップ](#)

美しい おもてなし
 ええじゃないか 伊勢の旅
 伊勢市観光協会公式ホームページ

観光名所を案内 みる	自然とふれあう あそぶ	旨いもんだらけ たべる	思わず目移り かう	のんびり、まったり とまる	四季を清製 いべんと	ルートを検索 みちわり	お申込・ご質問 きく
---------------	----------------	----------------	--------------	------------------	---------------	----------------	---------------

特集

[ホーム](#) > [昔話・民話](#) > 天の岩戸

▶ 天の岩戸

ちょっと詳しくてわかりやすい「天岩戸伝説」

世の始まりの頃のこと…。スサノオノミコト〔須佐之男命〕は、日本国の創造神であるイザナギノミコトによって生み出され、海や地をおさめるように命じられていました。しかし、彼はどうしようもない乱暴者で、仕事もせず周りの者を困らせるばかりでした。

何度諭されても改心することなく暴れ回り、あまりの傍若無人さに遂にはその地を追われることとなったスサノオは、姉であるアマテラスオオミカミ〔天照大神〕の元に向かいます。

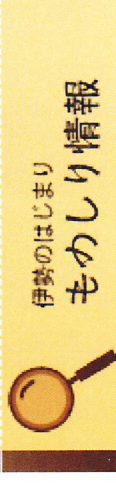
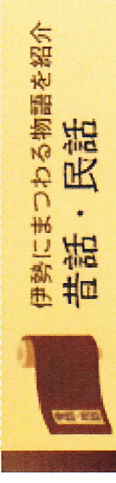
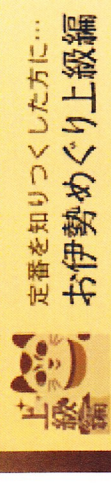
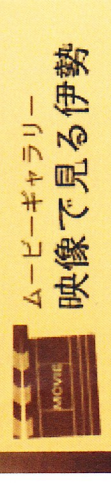
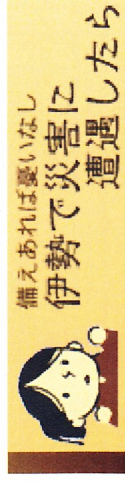
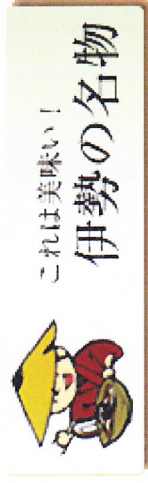
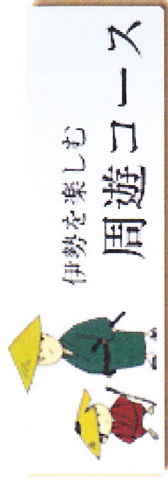
高天原〔たかまがはら〕を治めていたアマテラスは、弟のあまりに荒々しい様子を伝え聞き、「高天原を奪いにきたのでは？」と警戒して迎えました。

スサノオは迎えたアマテラスに対して「そのような気はない。ならば子をもうけて、女が生まれたら邪心があり、男が生まれたら清い心の証である」と誓約をしました。

まずアマテラスがスサノオの剣を三つに折り、天の真名井の水とともに噛み砕いたものを吐き出すと女の三神が生まれました。

次にスサノオがアマテラスの髪飾りの珠を同様に噛み砕き吐き出すと男の五神が生ま

 日本人の心のふるさと 伊勢神宮	 10人のプロガラーから 伊勢だより	 ぶらり気ままに 二見散策	 テーマでめぐる お伊勢さん
--	---	---	--



れました。

スサノオは、これによりアマテラスの怖れは邪推、スサノオは潔白と証明された。と言いきり、アマテラスの珠を使ったことでスサノオの所為を示すものではないとする他の神と押し問答になります。結局スサノオは高天原に居座ってしまいました。

ところが高天原でもスサノオの乱行は変わらず、田を荒らしたり、御殿に糞をまき散らしたりとやりたい放題で、皆が困り果てる中、アマテラスは姉として「何か考えがあつてのことなんでしょう」と、大目に見ていましたが、ある日スサノオが織り小屋に皮を剥いだ馬を投げ落とし、巻き込まれた織女が命を落としてしまった事に、嘆き・怒り、ついには天の岩戸にこもり、入り口を大岩で閉ざしてしまいました。

太陽の神が隠れてしまったことで世界は闇となり、さまざまな禍いが生まれ出てきます。困り果てた八百万【やおよそず】の神々は天の安河原【あまのやすかわら】に集まり相談をし、オモイカネの案で様々な儀式を行います。

常世の長鳴鳥を集めて鳴かせ、八咫鏡【やたのかがみ】・八咫瓊勾玉【やきかにのまがたま】などを作り供え、祝詞を唱えます。そしてアメノウズメノミコトが岩戸の前で、足を踏み鳴らし胸をばだけ袴まで押し下げて舞い踊ったところ、八百万の神は笑い転げ、その声は高天原中に鳴り響いたそうです。



岩屋の奥でこの笑い声を聞いたアマテラスは、岩戸を塞いでいた扉の岩を少し開けて「何故暗い世にアメノウズメは踊り、神々は笑っているのか」と騒ぎの訳を尋ねます。

アメノウズメが「貴方様より貴い神様がおいでになったので、皆で喜んで踊っているのです」と答え、すかさず別の神がアマテラスの前に鏡を差し出しました。

鏡に映った自分の姿を「**新しい神の姿**」と見間違えたアマテラスが、もつとよく見ようともし、う少し扉を開いた時、岩屋の横に控えていたタヂカラオが強力で扉を開け放し、アマテラスの腕を掴んで引き出します。

そして、注連縄を岩戸の入り口に張り、「もう二度とこれより中には入らぬよう」と皆の願いを伝えました。

こうしてアマテラスが岩戸の外に出たことによって、世の中は以前のような明るさを取り戻し、禍いもおおこらなくなりました。

一方スサノオは八百万の神によって、罪の償いにたくさんの品物を供することを科せられたあと、髪と手足の爪を切られ高天原を追放されてしまいました。その後「**根の国**」に渡ったとされています。

[▲ 上へ戻る](#)

Copyright(c) 2009 Ise City Tourist Association All Right Reserved.